

土木遠景

連載開始にあたって

皆さんは何に興味をもって土木の世界に飛び込んだのだろうか。国土・都市計画、自然とのかかわり、構造物のスケール……どこに原点がある人も、おそらく景色を見るのが好きなことは共通しているのではないか。

今回の連載は、土木構造物を可能な限り引いた視点から遠景としてとらえるという趣旨で企画した。土木構造物は遠景にとけ込み、その中の重要な要素として静かに存在するというイメージである。

このような写真を得意とするカメラマンとして、若手の大村拓也さんに連載を担当していただくことにした。さまざまな場所と時間で大村さんが表現した遠景と、撮影場所で感じたことを綴ったエッセイによるこの連載が、土木の魅力を再発見する旅となることを期待したい。

(喜多直之)

「土木遠景」というお題をいただいて、今月号から連載を担当させていただきますことになりました。土木はさまざまな要素によって成り立っています。しかし、スケールが大きいため、システムとして土木全体を見渡すことは非常に困難です。この連載では、できる限り俯瞰的な視点から土木構造物がある風景をご覧いただくことで、皆さんが無意識のうちに持つそれぞれの土木観に気づききっかけになればと思っています。一年間、どうぞよろしくお願ひします。

(大村拓也)

写真・エッセイ…大村拓也

企画立案・企画主査…喜多直之

